

---

# 僕の彼女と僕の気持ち

L . L

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕の彼女と僕の気持ち

### 【Nコード】

N6302A

### 【作者名】

L・L

### 【あらすじ】

僕の彼女はとても難しい女の子。わがままで冷めていて不感症。なんだか付き合っているのに片思いしている気分だ。とても切ない。そんな彼女と僕の話。

僕には付き合って1年になる彼女がいる。

身長は他の女の子より大きめで瞳はくりくりしていてこれも他より大きめ。

とても可愛らしい。

だけど彼女は冷めている。

僕にではなく恋愛に対してだ。

だから好きとか愛してるなんて言葉を彼女に言ってもあまり意味がない。おまけに彼女は忙しい。習い事をしているせいだ。

それに不感症。

彼女は愛し合っても何も感じない身体だ。

そんな色々な理由が重なったせいか、僕達は1年付き合っただけ思い出が少ない気がする。

まだ高校生で若いというのに、これはあまりにも不健康だ。

普通、高校生カップルなんてものは毎週のように愛し合ったり、無駄に電話したり、周りから羨ましく思われたりするものだ。

僕達の場合はそれとは正反対だ。

毎週のように愛し合うどころか会うことさえしない。

電話だって週に一回あるかどうか。

周りには哀れに思われたりもする。

まったくんでもない高校生カップルだ。ここまでひどいカップルは別れる直前のカップルくらいだ。

こんな事ばかり言っているけれど彼女と付き合っていて思った事はこんな事ばかりではない。

彼女とはあまり一緒にいられないけれど、離れていても安心する。

彼女は僕しか愛していないと分かるからだ。

彼女は半端な気持ちで男と付き合ったりしないし、あまり男を異性としてみていない。そのせいで付き合う前はとても苦労したけれど、だから浮気の心配があまりない。

これはとても助かる。

なぜなら、僕は前の彼女とは浮気が原因で別れたからだ。

もちろん浮気したのは前の彼女。

とてもショックだった。

けれど今になって良い経験になったと本当に思う。

浮気された側の痛みが分かったからだ。

これは本当に痛い。

僕は彼女にこんな痛い思いだけはさせたくない。だから僕は浮気しない。彼女の泣き顔なんて二度とみたくないからね。

僕は付き合う前に一度だけ彼女が泣いたのを見た事がある。

彼女が泣いた理由は、僕の前の彼女が流した嘘の噂。

前の彼女は僕の好きな人のありえるはずもない話を学校で色々な人に言った。

その頃の僕達はお互いの家で遊ぶようにまでなっていた。

そして彼女の家に遊びに行ったとき、彼女は部屋で僕にしがみついて泣いた。

自分のせいで泣いている彼女を見ているのがとても辛くて、でもとても愛おしく感じた。

だって好きな人に初めて男として見られたんだ。

頼られたんだ。

弱いところを見せてくれたんだ。

幸せじゃない男なんている訳がない。

そのときに本当に心の底から彼女を好きになった気がする。とても愛しくて。

僕が守ってあげたくて。

だからそのときに僕が告白したんだ。

そしたら彼女が泣いたまま、

「私は冷めてるしわがままだから止めた方がいいよ。」

なんてしようもないいいわけを言ってきたから、

「俺と付き合ってからのお前は幸せ？」

って聞いたんだ。

そしたら彼女が、

「幸せ。」

って言うてくれたんだ。

それで付き合ったら彼女は本当に冷たかったし、わがままだった。  
僕が、

「好き？」

と聞いても彼女は、

「嫌い。」

としか言わない。

良くて、

「微妙。」

だ。

最初の方は結構傷付いたが、最近では彼女の毒舌に慣れたのか何を  
言われても傷付いたりはない。

なんだか逆に切ない。

だけど、彼女にいくら冷たくされても、僕は彼女との関係に飽きた  
り、冷めたりした事なんてないし、これからもないと言いきれる。

本当に愛しているからね。

それに、もしも前の彼女みたいに浮気しても僕は彼女を許すよ。

彼女を失うのだけは死んでも嫌だからね。

さっき好きか聞いても嫌いと言われると言ったけれど、一つだけ、  
例外がある。

彼女に、

「幸せ？」

と聞くと絶対に、

「幸せ。」

と言っただ。

なぜかは知らないけれど絶対にそう言う。

僕は好きと言われるよりも、幸せと言われる方がなんだか嬉しい。  
言われると僕も幸せになれる。

これも、なぜかは知らないけれどそう思う。

ちなみに彼女は結婚したくない人だ。

だから将来、僕たちが結婚する可能性はとてつもなく低い。

彼女はとてもガンコだからね。

だけどじいさんになっても、僕は彼女を待ち続ける。

彼女意外の女の子と結婚したって意味がないし、なにより僕が幸せではない。

どんな美人でもだ。

なんだか付き合っているのに片想いしている気分。

だけど付き合っているのに片思いっていうのも悪くない。

いつも恋をしているような感じだからね。

僕の事を女みたいだとかバカにするやつがいるかもしれないけれど、  
本当に相手の事を愛しているなら僕みたいになっても仕方ないと思う。

僕は本当に彼女を愛しているんだ。

言葉ではあらわせないくらい。

不満もたくさんあるけれど、愛しているという気持ちの方が全然大きい。  
だから彼女のどんなわがままにも付き合えるし、冷めた態度

にも我慢できる。

その分僕が心を広くするんだ。

そうすればきつと、ずっと彼女と一緒に居られるはずだ。  
愛してくれるはずだ。

それだけで僕は幸せだから。

これが僕の気持ち。

**（後書き）**

みなさんはじめまして。感想等ありましたら是非お願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6302a/>

---

僕の彼女と僕の気持ち

2010年10月11日17時04分発行